

住化・住武相談室だより

第13号 1月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

| | |
|------------------------------|------|
| 新年のご挨拶 | p.1 |
| やさしい農薬の知識 (No. 6) | p.2 |
| 今月の相談内容から | p.3 |
| コガネムシ用新規BT剤(シリーズ) | p.4 |
| 新農薬紹介 水稻除草剤「イッテツジャンボ」 | p.5 |
| 雑草よもやま話 (13) | p.7 |
| 住化アグログループ「㈱日本グリーン・ガーデン」 | p.8 |
| 今月の推進農薬「デラウスプリンス・デラウスダントツ粒剤」 | p.9 |
| 農薬あれこれ?なぜなに?コーナー | p.10 |
| 病害虫発生情報 | p.11 |
| 新規登録農薬 | p.12 |
| 農薬登録情報 | p.13 |
| 最近の「お・・美味しい!」 | p.13 |
| コラム・そば談義 | p.14 |
| 編集後記 | p.14 |



「カンボクとカワセミ」

技術顧問 富樫 作

新年のご挨拶

日本の農業の転換期、技術とサービスの住友化学アグログループを目指して

住友化学株式会社

取締役 専務執行役員 大庭 成弘



明けましておめでとうございます。日頃の住友化学アグログループに対するご支援およびグループ製品のご愛顧に対して心からお礼申し上げます。

私どもグループは、日本の農業を担う皆様への貢献を常に目指しております。消費者が「食の安全・安心」を求めている中、我が国の農業は大きな転換期を迎えつつあ

ります。農業従事者の高齢化とその担い手不足が、今や最大の課題となっております。一方、日本の農業政策は農業経営全体の競争力強化に着目した施策に転換されようとしています。また、農地・水などの農業資源や環境の保全向上を図る施策の実施など農業政策が根本から見直されています。

私どもは人や環境にやさしい優れた農薬の創生を目指し、これまで以上に新農薬の研究・開発および新製剤開発にグループの総力を傾注し、更に省力化農業への提案をしております。また、環境保全型農業が推進されるなか、IPM(総合的病害虫・雑草管理)に適した農薬(天敵や天然物・微生物農薬)等の資材の開発や技術の普及にも注力し、農薬の適正使用を提案したいと考えております。

現在、私どものグループでは、農薬・肥料のほかに、コート種子や苗、灌水システムなどの農業資材などを提供させて頂いております。また、農業経営を支援するシステム(栽培管理、コスト管理、営農指導など)により安全・安心な農作物を差別化し、競争力のある生産システムの開発にも取り組んでおります。今後とも顧客満足度を第一優先に農業生産現場のニーズに総合的に応えられるよう製品力、技術力を高め、「技術とサービスの住友化学アグログループ」を目指してまいります。植物問題総合解決型企業を事業目標に、日本の農業生産の一端を担ってまいりたいと考えていますので、ご支援の程何卒よろしくお願い申し上げます。

【住友化学アグログループ】

住友化学アグロ事業部：農薬・肥料の開発・製造・販売など

住化武田農薬：農薬の開発・製造・販売など

住化タケダ園芸：家庭園芸向け農薬・肥料の開発・販売など

レインボー薬品：家庭園芸向け農薬・肥料の開発・販売など

住化農業資材：コート種子や苗、農業用灌水システムなど

日本グリーンアンドガーデン：ゴルフ場や鉄道・森林など非農耕地用防除資材の開発、販売

日本エコアグロ：環境保全型農業に係る資材の開発・販売

やさしい農薬の知識 (No.6)

【オフィスの観葉植物と農薬】

最近、こんな相談を受けた。

「オフィスで農薬の臭いをかいで気分が悪くなったのですが、体に影響はないでしょうか」と若い女性の声。

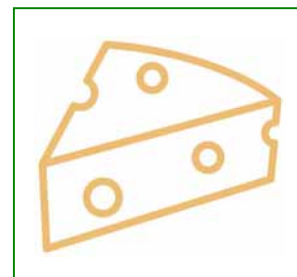
オフィスと農薬はとても考えにくい組み合わせで、良くある誤解*だなぁと思いながら、「私どもの扱っているのは農薬で、家庭で使用する殺虫剤は取り扱ってはいないのですが」と言うのを抑えて、もう少し話を

きいてみた。

「どんなものを、何に使ったのですか？」

「オフィスの観葉植物に業者

が乳剤を撒いて。オフィスは締め切っているのに、臭いがこもり、その臭いで気分が悪くなりました。今はもう大丈夫で



すが、体への影響がないかと心配で・・・」

その剤は、よく問合せを受けるいつもの剤ではなかったが、確かに花や観葉植物に登録のある農薬だ。でも、一瞬、話の状況が飲み込めなかった。どうもその女性は、「オフィスで」植木に農薬を散布したと言っているようだ？！

「業者の人がオフィス内で農薬をまいたのですか？外で散布して、薬液が乾いてから室内に入れるべきですが」

「そうなんです。業者の方もミスを認めているのですが、体への影響はありませんか？」

「健康への影響は考えられません。その剤は水で2,000倍に薄めて花や木に使用するのので、実際に植木に撒かれた有効成分の量はごくわずかです。その剤の毒性から農薬の中毒は考えられません。ごく微量の物質でも臭いを感じることがありますが、臭いを感じたのも短時間ですし、体に取り込

まれた量は無視できるレベルです。この剤も含めて、農薬については、急性的な影響のほか、長期間摂取した時の慢性的な影響、発がん性や子供・胎児への影響など様々な試験が行われて、問題のないことが確認されています。何ら心配することはありません」

その女性は安心したのか、「ありがとうございました」と言って電話を切った。若い女性が体への影響や将来の妊娠・出産への影響を心配するのは当然だった。電話の後、同僚にもきいてみたが、このような話は初めてだった。農薬の使用にあたっては、ラベルに従った適正な使用は勿論のこと、常識と良識も持ってほしいものだ。(原)

* 農薬は、作物、花・観葉植物、樹木、芝(農作物等)を病害虫や雑草から守る目的で使用される薬剤です。ですから八工、蚊、ゴキブリの駆除のために家庭などで使用される薬剤は農薬ではありません。

今月の相談内容から

倒伏軽減剤「ロミカ粒剤」散布した稲ワラの影響は？

質問

昨年ロミカ粒剤を処理した水田の稲ワラを野菜に使用したいのですが、影響について教えてください。

回答

ロミカ粒剤は稲作の中で適期に使用すれば、主として稲の上位節間の伸長を抑制し、稈長を短縮して優れた倒伏軽減作用を示します。

倒伏が軽減されると収量が安定し品質も向上します。また、収穫作業の能率化が得られます。ロミカ粒剤を使用した水田の稲ワラの利用は野菜の定植後に敷ワラに利用したり、土壌にすき込んで堆肥として施用したりしますが、水田に2倍量のロミカ粒剤を使用した稲ワラで試験をした結果でも、全く影響がありませんでした。更に、散布後水田からの揮散の影響、灌漑用水への流

入による影響、水田後作の他作物への影響等も認められませんでした。

ただし、ロミカ粒剤を使用した水田の土壌をそのまま野菜の育苗培土として使用するのには、生育初期の草丈に影響する恐れがありますので十分ご注意ください。

(富樫)



コガネムシ用新規BT剤(シリーズ)

「ブイハンターフロアブル」

防除効果と使い方

ブイハンターはいも類(サツマイモ等)を加害するコガネムシ類幼虫を当初の防除対象としました。特に被害の多い九州、四国、関東地域において防除効果を検討した結果、本剤は市販殺虫剤と同程度の防除効果を持つことが確認されました(下図参照)。その後、静岡県において茶のナガチャコガネ幼虫に対しても防除効果が確認されました。

先月号に記したように、BT剤の効力は昆虫が摂食することによって発揮されますので、ブイハンターを使って確実にコガネムシ類を防除するには、幼虫が生息する土壤中に均一に処理することが重要となります。サツマイモで使用する場合、苗を植え付ける前に土壌と混合させ、その後、畝立て・定植するといった処理方法を推奨しています。このような定植時(春先)1回の処理で栽培期間中に発生するコガネムシ幼虫を防除し、秋の収穫時までイモへの食害を抑える事ができます(写真参照)。なお、ブイハンターは一般的な土壌消毒剤や殺線

虫剤と併用処理しても効果には影響しないことから、従来の防除体系に組み込みやすい剤であるといえます。

一方、茶園においてはナガチャコガネ幼虫の生息する株元深くに土壌混和することが難しい為、幼虫の発生初期に土壌中に十分量の薬液を灌注、浸透させる必要があります。これにより幼虫が茶樹の根を食害する前に土壌中の有機物と共にブイブイ株を摂取し、被害を未然に防ぐことが可能となります。

BT剤中の殺虫性タンパク質は紫外線等によって分解されやすく、作物に直接散布した場合は短期間で効力が低下すると言われています。しかし、土壌中に処理するブイハンターの場合、直接日光に曝されることがない為に長期間にわたり効力を持続させることができます。このような特長を生かして「コガネムシ幼虫の発生前から遅くとも発生初期までに、土壌中に確実に処理すること」がブイハンターの上手な使い方といえます。(丸山)

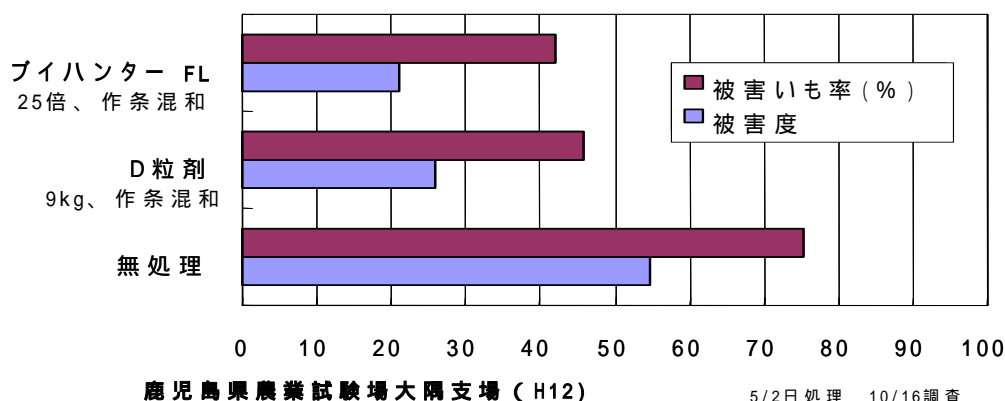


図. ブイハンターによるコガネムシ被害抑制効果(サツマイモ)



コガネムシ被害状況

ブイハンター処理区

(無処理区)

新農薬紹介**水稻除草剤「イッテツジャンボ」**

今月は水稻用除草剤イッテツジャンボをご紹介します。本剤は、平成17年12月に農薬登録になりました。これによりイッテツ剤としてはフロアブル、1キロ粒剤、ジャンボと3剤型が揃い、使用者のニーズに合わせて剤型を選ぶことができ、さらに使いやすくなりました。

まず初めに「イッテツ」剤の主な特長ですが以下の3つが挙げられます。

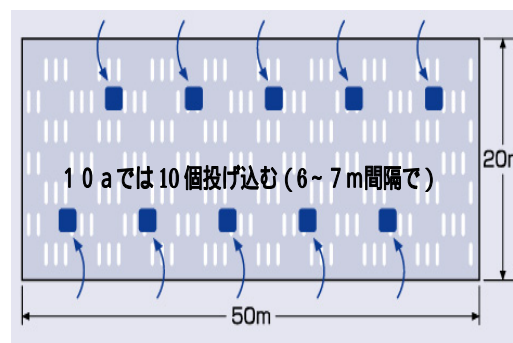
近年残草が問題となっているスルホニルウレア系除草剤抵抗性雑草に対して高い除草効果を示します。

近年問題雑草となりつつあるイボクサやヨバイヅルと呼ばれるエゾノサヤナカグサ等に高い効果を示します。

3つの有効成分で、上記の難防除雑草を含め、広範囲の雑草に高い防除効果を発揮します。

次にイッテツジャンボについてですが、上

記性能を有することはもちろんのこと、何と言っても簡単な散布方法が特長です。例えば図のような10aの水田では、田んぼに入らずに畔から薬剤を投げ込むだけです。投げ入れた薬剤は製剤の工夫により図のように水面上に拡がり、優れた拡散性を示します。

ジャンボ剤散布方法

なお、イッテツジャンボを上手にお使いいただくために以下の点にご注意下さい。

散布の際は水の出入りを止めて湛水深5～6cmとし、散布後3～4日間はその状態のままとし、落水・かけ流しはしないで下さい。

パックは破らずそのまま投げ込み、濡れた手で作業をしないで下さい。

藻や浮き草が発生する前に散布して下さい。(藻や浮き草が多発すると拡散が不十分となる可能性があります)

以上新しく登録になったイッテツジャンボをご紹介してきましたが、イッテツフロアブル、1キロ粒剤についても登録内容の充実を進めておりますので、どうぞよろしくお願いたします。(泉)



投入直後



拡散中



田んぼ全体に広がります

頑固な難防除雑草にイッテツ！



雑草よもやま話(13)

やっかいなアメリカセンダングサについて

水田の主な雑草はほとんどが史前帰化雑草ですが、新帰化雑草で広く問題となってきたものにアメリカセンダングサがあります。

アメリカセンダングサは、大正時代に日本に侵入したとされる北米原産のキク科1年生の雑草です。同じセンダングサ属の仲間には水田雑草のタウコギ、エゾノタウコギや、畑雑草のセンダングサ、コセンダングサがありますが、アメリカセンダングサは茎や葉柄が紫色を帯び、かつ葉がハッキリした複葉になる点が際立った特徴です。センダングサ属雑草の種子(瘦果)は、いずれも逆向きの棘のある芒を持つため衣服などに付き易く、“ひっつき虫”といわれています。

アメリカセンダングサは大型で茎が硬いため収穫作業に支障をきたします。従来アメリカセンダングサは中干し後に発生し急速に大きくなるため、有効な防除対策が取りにくいと考えられていましたが、水稲移植後1ヵ月程度しっかり防除すれば、収穫作業への害を回避できるそうです。アメリカセンダングサの幼植物は、5cm以上の深さに湛水するとほとんどが枯死します。水稲生育初期の湛水深の維持は、アメリカセンダングサの水田内への定着防止と、水稲用除草剤の効果の安定化の両面で重要な技術でしょう。

アメリカセンダングサの種子が成熟するには、開花後約1ヵ月を要します。ところが、開花後半月程度で水稲と共に地上部を

刈り取った場合でも、種子が成熟していません。種子が成熟するための期間が不足しているにもかかわらず、種子生産を可能にしている原因は、水稲収穫時に切断された茎でも種子の成熟が進むためです。従って種子生産防止のためには、アメリカセンダングサの刈取り時期に開花が認められた場合には、刈取ったアメリカセンダングサは水田外へ持ち出し、できれば適切に処分することが望ましいと言えます。

アメリカセンダングサが強害草化してきたのは、米の生産調整が強化され休耕田が増加した、70年代終わり頃から80年代にかけてと言われています。休耕田で繁茂したアメリカセ



ンダングサが大量の種子を生産し、周辺の水田に広がっていった可能性も推察できます。(岩崎)

*写真は、青木繁伸氏の「[植物園へようこそ!](#)」から使用させていただきました。

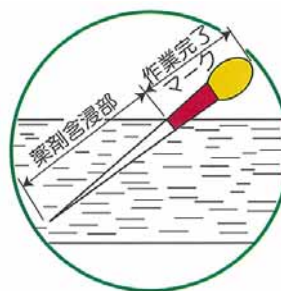
住化アグログループ紹介**(株)日本グリーンアンドガーデン****ケイピンエースのご紹介**

ケイピンエースは、通常の除草剤とは全く異なったユニークな「除草材」で、強力な殺草力をもつイマザピルを木針（楊子状）に浸み込ませ、特殊な製剤に加工しており、最も難防除とされる「クズ」枯殺の専用剤として開発されたものです。

[使用方法]

| 適用場所 | 適用雑草名 | 使用量 | 使用時期 | 本剤及びイマザピルを含む農薬の総使用回数 | 使用方法 |
|------------------------------|-------|--------------|-------------|----------------------|---|
| 下刈り代用：スギ、ヒノキ、造林地 | クズ | 一株当り 1～3本 | 萌芽期 ～生育期 | — | クズの根株、又はなるべく根元に近い茎にあらかじめ本剤を差し込むために適当な穴をあけ、本剤を葉の露出部分がかくれるように差し込むこと |
| 公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、宅地、運動場、のり面等 | | | | 1回 | |

[使用例]



[特徴]

- ・ごく微量の有効成分をクズの根株に施用することにより、難防除のクズの全体を枯らすことが出来ます。
- ・特殊製剤(木針製)であり、持ち運びに便利で能率的に作業することが出来るとともに、環境への薬剤のドリフトなどが無く環境に影響を与えません。

[使用上の注意事項]

本剤が抜けないように、適当な太さのキリなどで穴をあけてさしこんでください。挿入が不完全なため、抜け落ちたり、薬剤の部分が露出すると隣接した樹木に薬害が出るがありますので注意してください。

今月の推進農薬

水稻の苗箱処理剤について

デラウスプリンス・デラウスダントツ粒剤

今月は「デラウスプリンス粒剤」と「デラウスダントツ箱粒剤」をご紹介します。

年初に当り、稲作の作付け計画や病害虫および雑草の防除計画の立案にお役立てく

ださい。まず、

「狙い」は幅広い防除効果と省力とドリフト防止等により環境に対する影響が少ない薬剤の選択です。まず、

広範な病害虫に対し、高い防除効果のある「デラウスプリンス粒剤」からご紹介しします。「デラウス」は、住友化学が開発したいもち病防除剤です。本剤はいもち病菌のメラニン

生合成を低濃度で阻害することができ、効果は長期間持続します。また、殺虫剤である「プリンス」はイネドロオイムシ・イネミズゾウムシ・ニカメイチュウ・ウンカ類・イナゴ類など水稻の重要害虫に卓効を示す剤です。

本剤は「は種前」の培土混和处理が出来、農繁期の多忙な時期を避け農閑期である今の時期に必要な培土に混和し、は種作業時までその混合培土を保管することができます。また、「は種時処理」も出来「は種前混和处理」と同時に育苗期間中に発生する「苗いもち」に対して床土に処理されたデラウ



スが育苗中にごく少量溶けだして苗に吸収され「苗いもち」の発生を抑えることができます。この効果で、いもち病の罹病苗の本田へ持込むことを防ぐことができます。

多くの病害虫を育苗箱で処理できると本田での散布を削減できますので、本田散布剤と散布労力を削減が可能です。また、本田散布剤によるドリフト（農

薬の飛散）が減少し、環境への影響も少なくなります。

次に、「デラウスダントツ箱粒剤」をご紹介します。前述の「デラウス」と住化武田農薬が

開発した「ダントツ」との混合剤で移植3日前～移植当日までに使用でき、いもち病・ウンカ類・ツマグロヨコバイ・イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイ

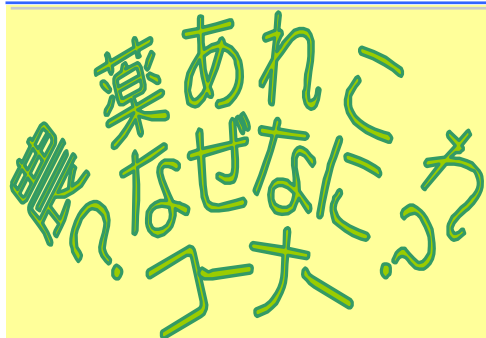
チュウ等の同時防除ができます。

特にツマグロヨコバイ・ウンカ類に長い残効性が期待できます。「ダントツ」は有機りん剤・カーバメート剤・合成ピレスロイド剤とは作用の異なる系統の新しい薬剤ですので、これらの剤に対し効果の低下した害虫にも高い効果を発揮します。又、人畜・魚介類・有用天敵（クモ類）に対して影響が少なく環境にやさしい薬剤です。

今年の稲作防除に是非お勧めしたい弊社

の2薬剤ですので、よろしくお願ひ申し上げます。

（富樫）



農薬の有効期限って どう決まるの？

ご質問

食べ物には賞味期限が定められていることがありますが、農薬にもそういった期限というのはあると思います。

その場合、期限が切れてしまうと、その農薬の効果は全くなくなってしまうものな

のでしょうか？また使ってもいけないのでしょうか？そもそも、期限というのはどうやって決まるのですか？教えてください。

お答え

農薬にも食品と同じように、成分・品質等を保証した有効年限というものがあり、西暦の下二桁と月（大半の農薬は10月）で表示しております。

農薬は、農薬取締法という法律とそれに基づく省令等（以下「農取法」とする）のもとで、製造・販売・使用に関する規制がなされています。現在の農取法では、農薬の有効期限内の間は、表示している成分含量以上のものが含まれていることが必要とされています。このため期限が切れた時点でも、成分含量は表示量より少なくなっていることはありません。

このため、少々有効期限が過ぎたものでも効果等は変わりません。但し、農取法上では「期限を過ぎた農薬を使用しないよう

努めなければならない」と定められておりますので、期限内に使い切るようにお願いいたします。

逆に、期限が過ぎているので少し濃い濃度で使用する、散布量を増やすというようなことは、農取法違反になりますので、厳に慎んでください。

農薬の有効期限は、その製剤中での自然分解などによる減少量を考慮して、最終の有効期限の時点でも、成分が表示以下にならないように設定さ

れております。現在の農薬では、よほど分解が早いものでない限り、3年以上で有効期限を設定しております。

（佐伯、稲葉）



病害虫発生情報

12月に各県からの病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

トマト、ミニトマト

トマト黄化萎縮病：香川県

タバコ巻葉ウイルス（TLCV）により発病します。タバココナジラミ、スイカズラコナジラミにより媒介されます。

トマト黄化葉巻病：神奈川・愛媛県

トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）により発病します。シルバーリーフコナジラミにより媒介されます。

タバココナジラミ バイオタイプQ：福岡・長崎・鹿児島県

シルバーリーフコナジラミ（バイオタイプB）との形態による区別は、現時点ではできません。従来のコナジラミ防除薬剤に対しては、感受性が低い系統ですが、ベストガード剤の効果は、このQタイプでも優れているという試験報告があります。

コナジラミ類の防除は、薬剤による防除だけでなく、施設の開口部に防虫ネット（0.4mm目以下）を張るなどの対策も同時に行うことが必要です。

いちご

うどんこ病：佐賀県

サルバトールME，サブロール乳剤などで、防除してください。

ハダニ類：佐賀県

下葉の裏に多く分布するので、薬液が十分にかかるように不要な下葉を除き、丁寧に薬剤散布することが必要です。オサダン水和剤・フロアブル、ロディー乳剤、くん煙剤としてスカイマイトくん煙剤、ロディーくん煙剤などの防除薬剤があります。



すいか

ミナミキイロアザ

ミウマ：沖縄県

ダントツ水溶剤・粒剤、ベストガード

水溶剤・粒剤、アグロスリン乳剤などの防除薬剤があります。



わけぎ

チューリップサビダニ：広島県

登録農薬はありません。貯蔵中は通風に努め、高温多湿を避けてください。発生を認めた場合、早急に隔離して他のコンテナへの広がりを防ぐとともに、被害種球を処分してください。

アスパラガス

ジュウシホシクビナガハムシ：神奈川県

アディオン乳剤、DDVP乳剤（50%）などの防除薬剤があります。

茶

サトクダマキモドキ：神奈川県

登録農薬はありません。剪定時に産卵された枝を除去し、幼虫が寄生する雑草の管理を徹底してください。

きく

キクわい化病：茨城県

キクわい化ウイルスによる病害です。主に汁液伝染するので、罹病株の摘蕾、切り花、台刈りなどの作業により伝染します。作業時には頻りにハサミを変えるか消毒し、汁液伝染を防ぐことが必要です。

（稲葉）

新規登録農薬

イッテツジャンボ

農林水産省登録第21599号(平成17年12月14日付)

[適用と使用法]イマゾスルフロン：2.25%、カフェンストロール：7.5%、ベンゾピシクロン：5.0%

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 適用土壌 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 適用地帯 |
|------|---|------------------------------|-----------|---------------------------------------|---------|---------------------|--|
| 移植水稲 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(北海道を除く) | 移植後 5日～20日 (ビエ2.5葉期まで) | 壤土～ 埴土 | 小包装 (パック) 10個 (400g) /10a | 1回 | 水田に小包装(パック)のまま投げ入れる | 北海道 |
| | ヘラオモダカ(北海道、東北)ヒルムシロ、セリ、アミドロ・藻類による表層はく離(東北、北陸、関東・東山・東海を除く) | 移植後 5日～15日 (ビエ2.5葉期まで) | | | | | 全域(北海道を除く)の普通期栽培地帯及び 関東・東山・東海、九州の早期栽培地帯 |

総使用回数：イマゾスルフロンを含む農薬：2回以内、カフェンストロールを含む農薬：1回以内、ベンゾピシクロンを含む農薬：2回以内

ドニチS1キ口粒剤

農林水産省登録第21602号(平成17年12月14日付)

[適用と使用法]イマゾスルフロン：0.90%、フェントラザミド：3.0%、プロモブチド：9.0%

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 適用土壌 | 使用量 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 適用地帯 |
|------|---|-------------------------------|-----------|-------------|---------|------|------------------------|
| 移植水稲 | 水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、(北海道を除く) | 移植後 5日～20日 (ビエの2.5葉期まで) | 壤土～ 埴土 | 1kg /10a | 1回 | 湛水散布 | 北海道 |
| | ヘラオモダカ(北海道、東北)ヒルムシロ、セリ、アミドロ・藻類による表層はく離 | 移植直後～移植後15日(ビエの2.5葉期まで) | | | | | 全域(北海道を除く)の普通期及び早期栽培地帯 |

総使用回数：イマゾスルフロンを含む農薬：2回以内、フェントラザミドを含む農薬：1回以内、プロモブチドを含む農薬：2回以内 (稲葉)

農薬登録情報 12月の適用拡大です。

| 薬剤名 | 作物追加 | 作物 | 害虫名 | 使用量 | 内容 |
|------------|------|----------------------------------|--------|----------------------------|-----------------|
| アディオン水和剤 | 作物追加 | かりん | シクイムシ類 | 2000倍 | 収穫3日前 3回以内散布 |
| オサダン水和剤 25 | 作物追加 | ネクタリン | ハダニ類 | 1000～1500倍 200～700L/10a | 収穫7日前 2回以内散布 |
| | 使用液量 | かんきつ、かき、りんご、おうとう、ぶどう、うめ、なし、もも | | 200～700L/10a | 使用液量設定 |
| | | すいか、メロン、きゅうり、なす、いちご、ホップ、セルリー、あずき | | 100～300L/10a | 使用液量設定 |
| | | 茶 | | 200～400L/10a | 使用液量設定 |
| | | きく、ばら、カーネーション、宿根かすみそう | | 100～300L/10a | 使用液量設定 |

(佐伯)

最近の「お・・美味しい!!」



弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい!!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪



「お正月には 黒豆を」

あけましておめでとうございます。本年も「佐伯連載」続けて参りますので、どうぞよろしくお付き合いくださいませ!!

さて、お正月といえば「おせち料理」ですね。うちでは、たいしたものは作れませんが、それでもせめて「お正月っぽい雰囲気を!」ということで、毎年ささやかながら何品か作ります。

今年は元旦から友人が大勢遊びに来たので、「おせち」が「鍋物」に替わっておもてなしとなってしまったのですが、それでも作りましたよ何品か。なかでも定番の黒豆。私、これが大好きで、毎年なんとなくこれだけは「作らなくっちゃ」と思って作っています。今年は、ちょっと手抜きをして水煮された黒豆を使ったので本当に最初から「ちゃんと」は作っていませんが、まあまあのできた。ま、好きなら別にお正月じゃなくても普段から作ればいいんですけどね。でもやっぱり、黒豆といえば「お正月」ですものね。



甘さ控えめです。味が調節できるのは手作りならではの。(北海道産黒豆使用)

(佐伯)

来年はちゃんと作るう...

コラム・そば談義

神宮（伊勢）に行く機会があった。

そこで、内宮と外宮の境内へ神宮に導かれ玉砂利を踏みしめ参拝した。拍手や拝礼など作法通りにすることで、日本人の血が流れていたと改めて気付き不思議な気分になる。

また、ご案内頂いた神宮司庁営林部長から印象に残る話があった。神宮には名所・旧跡の立看は一切なく、昔から日本人は風流を解し、それを尊ぶことで説明文がなくともそこに立てば気を感じてもらうことを旨とし不粋なものがないとのことだが、とても私自身その域に達しない。

さて、内宮から奥に広がる宮域林は、5,500ヘクタール近くあり20年毎に社殿を造り替える「式年遷宮」に備えて檜主体の混交林が広がる。次の遷宮は平成25年、もう準備が始まっている。翌日の早朝、朝

靄が立ち込める五十鈴川沿いから内宮に通じる宇治橋の向こうに広がる広大な森を眺めると厳かな気分になる。

さて、今年の初詣も家族で近所の神社に参拝したが、ここも神宮（伊勢）に通じているのだと手を合わせながら思った。

ところで、我が家では恒例となった年越しのそば打ちと松の内にも初打ちをする。そして、家族の厳しい審判を仰ぐことになる。容赦ない意見がびしびしと返ってくる。特に二男は「黙って食え」と言いたくなるくらいである。でも、これも修行とぐっと飲み込む。いつか、きっと上手くなってギャフンと云わせたい。

さて、日本人の風流というものを、お客様相談室の受け応えの中でそれがどういうものか、この一年じっくり考えて行きたいと思う。
(古津)

【編集後記】

皆様、お正月はどう過ごされましたか。

私も女房も関西育ちで、たまに正月に里帰りすることもあるのですが、子供達全員が就職した今は我が家に集まるようになりました。つい最近まで、お正月やお盆はお互いの故郷に帰るのが当たり前と思っていましたが、今後は特別のことがない限り帰ることがないでしょう。



歳を重ねるということは、こういうこともあるのかとふと考えてしまいます。

さて、前回の予告通り「お客様相談室だより」のアンケート調査を実施します。お答え戴いた方には、抽選で産地直送の美味しい「りんご」か「伊予柑」を各30名（計60名）様にお送り致します。

また、i 農力のホームページが近く新バージョンになります。内容は、「お客様相談室Q&A」、「住化・住武剤の防除暦（果菜類・葉菜類・果樹など）」、「相談室だより」の最新号が毎月常時ご覧になれます。また、次号からは「全国の農家さん」をご紹介しますコーナーが始まります。

益々充実する「i 農力」ホームページをご期待ください。